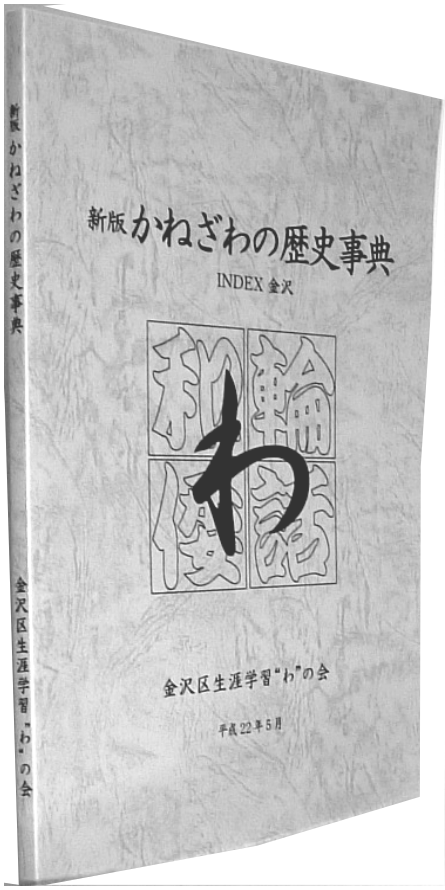
重版出来!!

新版 かねざわの歴史事典

網羅性と簡潔性から「これは便利」と評価を頂き、平成22年の1刷・2刷ともに瞬く間に在庫ゼロとなった事典。

当会の設立15周年記念として、より広くこの事典を活用頂くために重版を決定。



［内　容］金沢にゆかりの人物・地名・寺社・文化財・出来事・伝説などの 1500 項目について、各項目を200字程度で解説。

付属資料として、和洋歴対照表・金沢の歴史年表・系図・支配者変遷・行政変遷・古い地名・寺社一覧・神社建築・鳥居・石塔・札所一覧・文化財一覧・参考文献を添付。

［内容見本］裏面に掲載。

なお、詳細見本は下記ホームページを参照。

http://kanazawa-wanokai.in.coocan.jp/jushunen/jiten/index.html

［装　丁］ビニールコート表紙 A4版 186頁

［お求め］金沢区役所売店

岩下書店(アピタ金沢文庫店3階)

［価　格］ 1,300円

［問合せ］　Tel：045 - 785 - 1639　(今井)

E-Mail：yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

金沢区生涯学習“わ”の会

の地で行ったところ成功したとして、大正14年(1925)に建てた。藤綱は鎌倉時代の伝説的武士。「鎌倉幕府の引付衆の時、鎌倉の滑川に銭十文を落としたが夜だったので五十文で松明を買わせて銭を探させた」という逸話が残されている。

【青野山】あおのやま
現在の釜利谷東四丁目阿王ヶ台団地付近にあった台地。中世には金沢右馬助(貞冬)の居城(山城)があったといわれ、山名から青ヶ城、青ヶ台城と呼ばれた。

【青葉の楓】あおばのかえで
金沢八名木の一つ。秋になっても紅葉しないという謂れがあった。この楓についての最古の記述は文明17年(1485)刊行の『北国紀行』であり、常泉為相(1263～1328)が称名寺に詣でた折、一本の楓だけ紅葉しているのを見て「いかにして此の一本の時雨けん山に先立つ庭のもみじ葉」と詠んだところそれ以後紅葉しなくなったと記されている。謡曲「六浦」の主題ともなった。何代目かの若木が称名寺の金堂前の阿字ヶ池の畔にある。

【堰り水門】あおりすいもん
水流と水位差によって自動開閉する水門。多くは海水の流入を防ぐため河口に設置された。瀬戸橋の北にあった姫小島水門はこの形式であった。[→姫小島水門]

【赤井】あかい
金沢七井の一つ。釜利谷の正法院境内にある。「弘法大師が関東巡錫の際、村人が病気や日照りに苦しむのを見て井戸を掘り加持(災いを除き、願いをかなえるため仏の加護を祈ること)したところ非常に良い水が湧き出した。井戸を覗くと赤色だが手に掬うと澄んだ水だった。」その水の色から赤井といい、村名の起こりともなった。井戸は現在も使われている。大師がこの水で不動明王像を描いて護摩祈祷をしたのが正法院の始まりと伝えられている。[→正法院]

【赤井稲荷】あかいいなり
釜利谷東小北交差点の北側山裾にある稲荷社。祠前には文政1年(1818)銘の石灯籠がある。

【赤井温泉】あかいおんせん
釜利谷東三丁目にある温泉浴場。昭和23年(1948)に、共同浴場だった施設を利用し赤井温泉として開業した。掘削深度70m、泉温
塩重曹泉で15種類の成分が含
コーヒー色なのは含有してい
適応症は胃腸、神経痛など。
再建後平成7年(1995)に改築
浴場になった。

【赤井学舎】あかいがくしゃ
明治6年(1873)に満蔵院(釜利
として開かれた学校。現在の釜

【赤井新田】あかいしんでん
京急金沢文庫駅西側の白井崎
瀬戸の入海の海岸に開拓され
完成した嘉永2年(1849)前後に
田ともいわれたが、名の謂れ

【赤井村】あかいむら
釜利谷東三丁目を中心とする
明治初期までの村名。金沢七
来する。江戸時代初期の釜利
の間(1644～1704)に、宿村、坂
分かれた。明治8年(1875)に釜
村は消滅した。赤井村は瀬戸
新田があった。[→釜利谷村]

【赤彩文の大型浅鉢】あかさ
さばち
肩の部分に赤い顔料で文様を
「称名寺A貝塚」から昭和7年
のは横須賀市自然人文博物館
は縄文時代後期前半の貝塚で
右側にあった。このA貝塚は
も早く明治30年代(1897～)に
内貝塚と呼ばれた。[→称名寺

【あかざ堂】あかざどう
称名寺境内にあった堂塔の名
鎌倉時代に三重塔として建て
(1624～1644)の頃には初層の
政2年(1819)の石橋氏寄進目
の1項目に藜藿堂石壇とある
となっていた三重塔を指す。
風土記稿』(1810～1828編纂)
(1836刊)はあかざ堂、『金沢名
観座堂と記した。他の名称は
祇堂、愛染堂などである。堂

《あ》

【アイオン台風】あいおんたいふう
昭和23年(1948)9月16日に来襲した台風。伊豆大島をかすめ、房総半島の南端に上陸。横浜で北の風最大風速25.8m/s、降雨量157.7mm、家屋全壊10棟、半壊3棟、床上浸水161棟、床下浸水2,121棟の被害があった。区内ではこの台風で小柴漁港の防波堤が倒壊した。

【愛染明王】あいぜんみょうおう
衆生の愛欲煩悩をそのまま悟りに導く明王。像形は一面三目六臂(一つの顔で三つの目と6本の腕を持つ)、頭上に獅子の冠を頂き、忿怒相で全て坐像。持物は金剛鈴、五鈷杵、弓、矢、蓮華。区内では、能華寺、称名寺、慶珊寺、染王寺などに祀られている。称名寺の愛染明王坐像は重文。

【会津藩】あいづはん
親藩大名の松平氏が寛永20年(1643)から幕末まで225年間会津若松に居城を定めて支配した藩。23万石。文化7年(1810)幕府より江戸湾の相模側警備を命ぜられ峠村を支配した。支配は警備が免除された文政3年(1820)まで10年間続いた。その間の藩主は松平容衆(1803～1822)。[→幕府の江戸湾警備体制]

【阿吽】あうん
梵語に由来し、最初と最後、開と閉、呼気と吸気を表わす。寺社入口の仁王、狛犬、狐などの像はいずれも阿形と吽形の阿吽一対で、阿形は入口に向って右に、吽形は左に置かれるのが一般的。金沢の寺社や小祠で阿吽の形の像がみられる。

【青い目の人形】あおいめのにんぎょう
①童謡の題名。大正12年(1923)野口雨情作詞、本居長世作曲。今も歌い継がれている。
②米国から贈られた人形。米国政府の排日政策による日米間の険悪化の緩和に少しでも寄与しようとした米人宣教師の発意により、昭和2年(1927)に全米各地から日本に送られてきた。12,739体あり、それぞれ名札とパスポートを付けていた。その内の1体が六浦小学校にも贈られた。国内には300体ほどが現存するという。[→ミス・ホーソン人形]

【青ヶ台遺跡】あおがだいいせき
釜利谷東四丁目の阿王ヶ台団地付近にあった約4,500年から3,000年前の縄文時代中～後期の集落の遺跡。貝塚、竪穴住居跡、敷石住居の一部、人骨などが発見された。貝塚からは土器、石器、釣針、モリ、ヤスなどの漁労具、猪、鹿、イルカなど動物の骨、大量の魚骨が出土した。遺跡は昭和42年(1967)頃から始まった宅地造成のため、全容を現すことなく全て破壊されてしまった。

【青島石】あおしまいし
称名寺庭園の苑池の景石(趣を添えるための石)に使用されている岩石の一つ。称名寺の拡張工事が盛んに行なわれたときの元応2年(1320)頃、金沢貞顕が称名寺第2代長老釼阿にあてた書状に青島石の記載がある。初代金沢文庫長の関靖は『かねさは物語』に、「この石は宮崎県の青島にある水成岩(堆積岩の1種)で、この石が選ばれたのは金沢顕時の弟である実政とその子政顕が鎮西奉行を勤めていたことによるものであろう」と述べている。また、『称名寺庭園苑池保存整備報告書』(横浜市教育委員会、昭和63年)によると、「景石は数十個あり、最大約7.9m、凝灰岩(堆積岩の1種)である」と記載している。

【青砥】あおと
富岡東一丁目の国道16号線東側の丘陵地域。古くはオオトといった。大正14年(1925)に「青砥藤綱之墓」という顕彰碑が建てられたことから、青砥と呼ばれるようになった。

【青砥オブツナ様】あおとおぶつなさま
富岡東一丁目の「青砥藤綱之墓」という顕彰碑の傍にある小祠。オブツナは産土神の転化とみられるが、土地には伝承が残っている。「昔この土地のある住民がお伊勢参りの際に諏訪を廻って帰ってきた。背の荷物が急に重くなったので帰宅後調べてみたら仏像の形をした石が出てきた。これを御諏訪様と称して祀ったのが起こりだが、のち廃れたのでオブツナ様を建てて祭めた」という。[→産土神]

【青砥藤綱之墓】あおとふじつなのはか
富岡東一丁目にある顕彰碑。墓碑ではない。大正時代に加藤某が青砥藤綱に関わる映画のロケをこ

付3

金沢の歴史年表

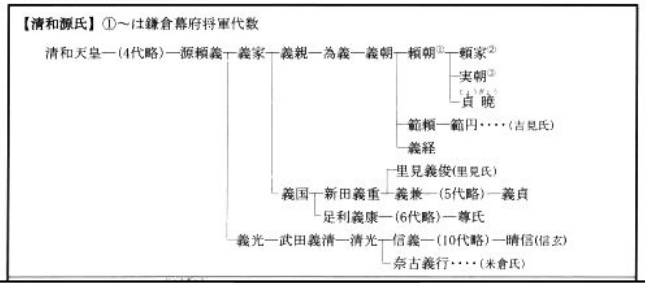
和　暦	西暦	で　き　ご　と
BC5000年頃		縄文時代早期に野島に貝塚ができた
BC3000年頃		縄文時
BC2500年頃		縄文時
安閑天皇1	534	武蔵国
神護景雲2	768	飛鳥部
承平年間	931～938	事典
久安3	1147	常福寺
保元2	1157	大中臣
治承4	1180	源頼朝
		源頼朝
		北条時
文治年間	1185～1190	源頼朝
建久年間	1190～1199	瀬ヶ崎
建久2	1191	源頼朝
建久4	1193	源範頼
正治年間	1199～1201	瀬ヶ崎
元久2	1205	畠山重
安貞2	1228	鎌倉幕
仁治2	1241	朝比奈

付9

系　図

Ⅰ.清和源氏、桓武平氏と北条氏の略系図
Ⅱ.金沢に関連の深い諸家の略系図

Ⅰ. 清和源氏、桓武平氏と北条氏



付13

近世金沢地域の支配者変遷

江戸時代初期から明治期に至るまでの金沢地域の支配者を各村ごとに年代を追って一覧表とした。

年代(将軍) ＼ 村名	寺分村	平分村	社家分村 ※1	寺前村 ※2	赤井村	宿村	谷津村
天正18(1590)【徳川家康江戸城入り】		「幕府領」					
①家康 慶長8(1603)			(代官)	大久保長安			
②秀忠 慶長10(1605)				長谷川長綱			
③家光 元和9(1623)				人木正重			
				木重朋			
				木重綠			
				世広之 寛文2(1662)			
				木長信 寛文9(1669)			
							「旗本領」
				6ヵ村の支配始まる			倉橋久富
				元禄12(1699)(同年7月没)			元禄10(1697)
				元禄12(1699)			倉橋久知
				元禄15(1702)			
				正徳2(1712)			倉橋久道
				享保7(1722)			
				(金沢藩初代)			倉橋久幾
				享保20(1735)			
				寛延2(1749)			
				天明5(1785)			